

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	08	項	02	目	02
事務事業名	消雪施設等補助事業								
担当部署	建設部道路河川課	605000	電話	66-4905			内線		

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	05:環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり	05000000
	施策の大綱	07:雪対策の強化	05070000
	施策	02:消融雪施設の整備促進	05070200
	施策の内容	03:消雪パイプ新設、更新の補助	05070203
根拠法令等	消雪施設に対する補助金等交付要綱		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	①除雪機械が入れない狭隘道路の消雪施設の整備を図ることを目的とする。 ②少子高齢化社会に対応した消雪施設の整備拡充を図ることを目的とする。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	①除雪機械が入れない狭隘道路。 ②住宅団地等の家屋が密集した道路。
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	消融雪施設及び揚水施設の新設及び更新を行う組合に対して工事費の補助を行う。
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	①狭隘道路の消融雪。 ②少子高齢化社会に対応した道路の消融雪。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 新規組合数	組合	9	1	1
	② 消雪パイプの更新組合数	組合	5	6	6
	③ 揚水施設の更新組合数	組合	2	1	2
成果 (事業の成果を測る)	① 消雪組合数	組合	242	243	244
	②				
	③				
投入コスト	決算額		14,282千円	6,615千円	4,577千円
		一般財源	14,282千円	6,615千円	4,577千円
	人件費		4,995千円	4,995千円	4,933千円
		一般職員の年間従事人数	0.7人	0.7人	0.7人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
	総コスト (決算額+人件費)		19,277千円	11,610千円	9,510千円

事業を取り巻く環境	高齢化社会が進み、道路除雪された玄関先の雪を寄せることが難しい世帯が増えて来ているので補助申請が多くなっている。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	高齢化社会に適応し、冬期の生活道路として重要と判断している。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	除雪機械の入れない道路に対して有効である。	
	③【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
効率性	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	組合に補助し、組合で運営していくのが、ベストである。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
拡大 A 現状のまま継続 B 改善しながら継続 C 拡大 D 縮小 E 廃止	高齢化社会に適応した消雪施設の整備拡充が必要である。